新型コロナウイルス感染下での技師会活動の今後
長崎県臨床検査技師会からの報告

◎門脇　和秀[1)]
みさかえの園総合発達医療福祉センター　むつみの家[1)]

私は令和２年５月30日に会長に就任しました。新米会長としては、何事も例年通りに進めていけるのであれば良かったのですが、すでに新型コロナウイルス感染拡大傾向にあり、どのように技師会活動を行えばよいのかスタート時点から悩み続ける日々でした。会議については、比較的早い段階でZOOMミーティングの情報を入手できたので、滞らせることなく開催することが出来ました。問題は勉強会や研修会が開催されないことでした。そのような中、“我々が技師会活動を停滞させないために今できること”について常任理事に自由に意見を出していただき検討しました。その結果として新たに始まったのが「長臨技Webセミナーの開催」と「長臨技ニュースの発行」でした。「長臨技Web セミナー」は学習する機会が激減した状況をどうにかしたいという思いから生まれたもので、ZOOMミーティングを使用して開催しました。また、“技師会での集まりが全くなく、情報が伝わってこない”“どの施設に新人技師がいるのかを知りたい”という要望から生まれたのが「長臨技ニュース」です。今まで会議内容を迅速に伝えるための「長臨技速報」を印刷して配布していましたので、それは継続し、新理事挨拶や新人技師紹介などを別途デジタル版として、写真等を使い見やすい形にしてホームページ上に掲載しました。

With コロナの技師会活動においても、Webの使用は切り離せないと思っています。Webセミナーの利点を多くの人が実感しています。しかし、Webでの聴講のみでは会員間の交流が得られず、関係性が希薄になる傾向があります。そこで、会議や聴講のみの研修はWeb 開催とし、実習やグループワーク、交流行事の場合は集合形式にするというのが良いと思っています。私はPC画面での会話より、リアルに会って会話する方が何倍も楽しく感じます。また、会員間の交流の代わりとして始まった長臨技ニュースですが、リニューアルを含めて再検討していく予定です。今後はホームページやメールの利点を生かし、迅速な広報活動に努めます。更にペーパーレス化を進めていくことで、役員業務の効率化につなげたいと考えています。